

高退協 ニュース

高知高退協
事務局

No.173

2011年
11月1日

〒780-0850 高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内2丁目1番10号
高知城ホール高知組気付
TEL 0885582255 11892
郵便振替口座 0165052511893

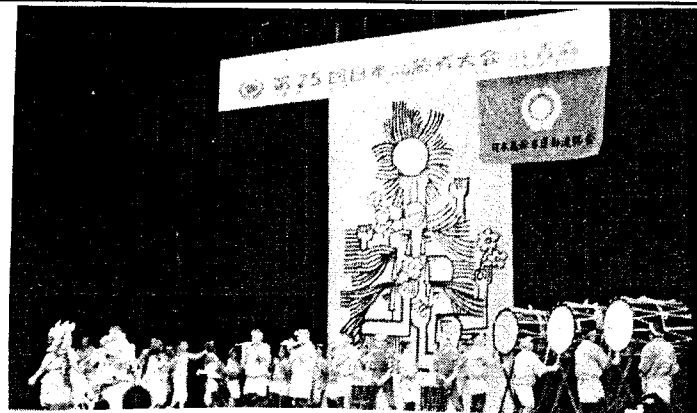
第25回 日本高齢者大会

「独りぼっちな高齢者をなくそう」

橋元陽一

今年、青森市で開催されました。高知団は大会前日の九月一日に、女性四名と男性八名で、岩手県西和賀町（旧沢内村）を訪れました。資料館では、六〇年前に憲法二五条を掲げて「貧困・多病・豪雪から村民のいのちを守る」村づくりの先頭に立った故深澤晟雄氏の足跡に思いを馳せました。その夜は花巻温泉でいのちのエネルギーを補給して、翌朝、バスで青森に向かいました。

分科会と全体会が開催された二日間で、四七都道府県から延べ四五〇〇人余が集まり、「地震・津波災害への救援・復興を急ぎ、原発被害を防げ」、「町から村からの連帯で独りぼっちな高齢者をなくそう」の訴えが全国に広がったと確信しました。



参加した分科会では、篠崎次男氏が、「高齢者は、特に後期高齢者は、戦後の社会保障運動で少数派であり、展望が見えない中でも、小児麻痺生ワクチン獲得、生活保護拡充、老人医療費無料制度など道理ある要求を掲げ、実現していく行動で一つひとつ世論を喚起しながら、訴えてたたかっていた経験者である。いまその豊富な経験を生かすときだ。当時の気概、心意気を取り戻してたたかおう。」と訴えられました。さらに全大会の記念講演で日野秀逸氏が、「東日本大震災の復旧・復興は、被災地、被災された方からの視点を外すな」と訴えられたことに感銘を受け、ひとの絆を大切に生きる生き方を学ぶ機会になりました。

大会のフィナーレは、青森ねぶたの囃子と「らっせ、らっせ、らっせらー」の掛け声とハネト（踊り手）で2300人の会場が熱気に包まれました。来年は香川です。

高退協

望年会 芸能大会・作品展

日時 12月6日(火) 午後5時～
会場 高知城4階大ホール
会費 5000円
連絡先 橋元090-8694-1736
井上090-7577-1018
芸能大会出場者・作品展出展を募集しています

2014から 県立高等学校 再編

今高教組は... 高校の統廃合・再編の 論議が本格化

米満 敏孝

2014年度以降の「県立高等学校再編振興計画」の本格的な検討が始まっています。9月5日に県教委の諮問機関である県立高等学校再編振興検討委員会が立ち上げられ、同検討委員会を補完する作業部会も10月18日に第1回会合が開かれました。9月には、中学生・高校生・保護者・事業所を対象にした「再編振興に係るアンケート」調査も実施され、10月には県内9カ所で県民の意見を聞く地域懇談会も開催されました。

3年11月に策定された「県立高等学校再編計画」にもとづき、この10年間にわたってとりくまれてきました。また、この間の公立高校の「入試改革」によって、高校の再編ともかかわりのある学区の段階的撤廃も行われ、今年度の入試から全県一区での募集が行われます。

今年度入学者数を20人を下回った吾北分校：地元中学校からの入学生は50%を越える地元の高校。今年度の入学者数が20名を切り、県教委の「連続する3年間で入学者数が20名に満たない年度が2度ある場合は、翌年度から募集停止なる」にリーチがかかった。しかし、地元中学生の卒業予定数は、23年度以降20人を下回る。この原則はおかしい。現在旧本川村、旧池川町、旧吾川村からの通学生もいる。経済的な理由から高知市内の高校に行けない子どもたちである。山間部の子どもたちは高校に進学できなくなる。

その他、来年度から募集停止する大月分校、学科再編が県教委より指示されている高知農業高校、総合学科春野高校（文書）からの報告もありました。

今後、高校の統廃合・再編の議論が本格化します。誰のための高校なのか、県民あげての運動が求められています。

想定外に悩む日々の中で

西から東から 森本 宏

現在私は、四万十市古津
 二団地の地区長と防災
 責任者をしています。三五
 ○世帯、八〇〇人が生活し、
 少子高齢化が進んでいる地
 域です。家屋のほとんどが
 昭和五〇年代初めに建てら
 れています。防災組織は約
 三〇年前に組織されており、
 毎年防災訓練、学習会など
 を行ってきました。また
 独自の防災車、防水用ポン
 プも所有しています。

この地域は河口から約六
 kmの所にあり、堤防の高さ
 は一二mあり、今まで津波
 を想定した訓練はしてきま
 せんでした。しかし東日本
 大震災では河口から六km以
 上でも津波に襲われ多数の
 犠牲者が出ましたので、津
 波の被害も危惧されます。

東日本大震災を教訓に、
 今までの自助、共助で家屋
 の倒壊、火災を中心にした
 防災訓練のあり方の見直し
 が求められています。

自助については、家屋の
 耐震化、家具等の転倒防止、
 避難のための準備など、「自

分のいのちは自分で守る」
 防災力を身につけるための
 啓発活動をより積極的に行
 うことが必要です。

共助については震災直後
 の行動をどうするべきかを
 検討しなければなりません。
 津波の情報を得られないこ
 とも考えられます。東京大
 学の郡司教授が講演会で中
 村町内は津波の心配は少な
 いのではないかと説明され
 ていましたが、逃げるのを
 最優先する行動でよいのか、
 共助のあり方、行動を住民
 と一緒に検討することが必
 要になっていきます。

次の南海地震によるこの
 地区の最も深刻な被害は、
 軟弱な地盤の上に建てられ
 た、耐震性に弱い多くの家
 屋が倒壊することだと予想
 されます。取り残された住
 民の救出、要援護者の避難
 援助、また火災の発生も考
 えられます。その時には一
 秒でも早い救出が必要です。
 こうした被害に対応できる
 自主防災員の活動について
 も地域で再確認していく必

専従の仕事の一つが、
 県議会や教育委員会など、
 教育に関する会議の傍聴。
 このところ、気になるこ
 とがあります。

教育委員会を傍聴しよう！

教育委員会は、特に、
 県民の関心が高い議題が
 ないと傍聴人は少ないの
 で、いつも県教委事務局
 の職員が傍聴席に座って
 おり、資料も職員が取り
 て不足することがありま
 す。一〇月の教育委員会
 では、入室前に最後の一
 部の資料を職員が取るの
 を見て、堪忍袋の緒が切
 れ、抗議しました。傍聴
 人（県民）を軽視した姿

勢が、そのような行動を
 とらせているのかもしれ
 ません。

県民が各委員の発言（議
 論）を、緊張感の持った
 ものにさせ、職員にその
 ようなことをさせないた
 めには、多くの傍聴が必
 要です。

高教組書記長 谷内康浩

要です。
 また子どもたちの問題も
 あります。これまで子ども
 たちが地域の防災訓練に参
 加することはほとんどあり
 ませんでした。地域で生活
 している時間が多い子ども
 たちにも地震に遭遇したと
 き、身を守る的確な行動、
 自己管理ができることが求
 められています。地域の防
 災訓練にも参加する手立て

と共に、学校教育と一体に
 なった取り組みが喫緊の課
 題です。
 想定外という言葉が使わ
 れますが、地域では最悪な
 状況を考え、震災から住民
 のいのちを守るために何が
 できるのか、あらゆる角度
 から検討して、今度の防災
 訓練、啓発活動に生かして
 いきたいと思っています。

ちょうど二十年前に、『般
 若心経』を夢中になって読み、
 口語訳まで試作したこととし
 た。その次が、数年前で、『教
 行信証』と『歎異抄』を買っ
 て読み大満足しました。とい
 うのも、在職中に図書館から
 ちよいと拝借して済ましてあつ
 た親鸞の理解のままでは、心
 残りだったからです。

ことし、それをもう一度引
 つ張り出して『歎異抄』の自
 己流口語訳をつくりました。
 小説『親鸞』は、事件をつな
 いで読ませる技巧が強くて、
 私の親鸞観を傷つけることが
 あったからです。

飲水思源

『歎異抄』から 横田 憲

したが、広く流布した功績は
 親鸞のものだと思います。
 「弥陀は悪人をこそ真つ先に
 救う」というその教説に対し、
 案の定、悪を重ねて極楽行き
 をねらうという異義が現れた
 ようです。それに対し親鸞は、
 「悪事をしたことが往生の妨
 げにならない」のが本旨であ
 り、わざわざ悪を重ねる者が
 往生できるものと批判して
 います。

私が注目したのは、海で漁
 をしたり、山で狩猟をするな
 ど、殺生することを生業とす
 る者、田畑で耕作をする者と、
 道場もちの善人ぶった念仏者
 とを対比している所です。殺
 生することを定めとする庶民
 を悪人の側においているらし
 い表現ですが、善人ぶった念

仏者は偽善者としてきつぱり
 糾弾しています。そんなに信
 じ切ったあげく親鸞が地獄へ
 行くはめになったらという非
 難に対しては、「地獄が自分
 の住み家であつてもいいでは
 ないか」と、真理への確信の
 強さを示しています。これな
 どは私を唸らせました。

次に、親鸞が生涯弟子一人
 も持たなかったことです。そ
 の理由は、親鸞も他の者も同
 じように、弥陀に導かれて念
 仏しているのだから、共に同
 じ道を歩む者同士であつて、
 弟子などと呼ぶなんてとんで
 もないというのです。私が弁
 証法の話をしたとき、労働者
 がとても喜んでくれたのはい
 いのですが、「話のおもしろ
 さ」のように受けとられるの
 が残念で、「弁証法のおもしろ
 さ」を強調したことでした。
 それと、親鸞の平等思想は、
 近代の平等思想のさきがけと
 いうよりは、古代スパルタに
 おける原始共同体の平等の遺
 産に近いように見えます。
 そのほか、人間は仏になら
 ねばならぬが仏になれないと
 いう根本矛盾のとらえ方、人
 間の有限性を弥陀の無限性に
 対比しながら、あくまでも有
 限性に徹して無限を志向する
 ところ、覚者となるのは自分
 一人でないとする、ヘーゲル
 の「類」としての人間把握に
 通じるものなど、内容が豊富
 です。



老眼鏡(読書の頁)

戦後川柳作家 鶴琳

深井一郎著

日本機関紙出版センター

小澤幸次郎

鶴琳をご存じでしょうか。

川柳作家のなかでも彼の名を知る者はほとんど少ない。今年五月、高知でも映画「鶴琳、心の軌跡」が上映されたので、観られた方もあられたかと思

います。本名・喜多一二。1888(明治42年)石川県河北群高松町で出生。16歳で柳誌デビュー

、治安維持法違反で2度の投獄、1938年(昭和13年)29歳で獄死まで約30篇の作品を遺したプロレタリア川柳人(鶴琳)大正から昭和13年まで、時流に抗し生き抜いた鮮烈な生涯である。鶴琳が夭逝して、すでに六十周年を越えた

三十年足らずの短い生涯の大方を、平和希求の炎のような情熱で駆けぬけた一人の青年詩人ことが、昨今ひろく認識され評価されていくのは、一つには彼が軍国主義体制台頭の最中であって、民衆の平和への願望を、その反戦反軍



県議選に挑戦して(4)(終)

橋元陽一

半年間の選挙戦はあっという間に過ぎました。開票結果は悔しいですが、めげる気持ちは湧いて来ず、四〇年、五〇年もの間、国政、県政から見放されてきた高岡郡を再生していく課題に挑戦されている方々から戴いたエネルギーの大きさをいっばい実感することできました。日常的な人と人が繋がり合い、絆をつくりだしていくことの大切さ

の立場から明確にうたいあげること、川柳という短詩文芸をもって代弁し、それゆえに二十九歳で獄中死したこと。もう一つは、江戸末期に芽を吹いた川柳も、当時の支配層

に对立した一方の主流である農民層の、被支配的感情、立場を表現するまでには至っておらず、中には進歩的小市民性によるものがあるにせよ、殆どは中間層の思想傾向によるものであったため、すぐに支配層に迎合し狂句という非文芸的アソビに、転落せざるを得ない必然性をもっていった。

明治に入り、資本主義社会になっても、多分に封建性を包み込んだ特異な移行であったから、支配層ブルジョアヰーに对立するプロレタリアートの立場をつらぬく川柳は、遅々として育たず、明治大正の川柳復興期においても、小ブルジョアの感情の表現に終始していた。昭和に入り、井上剣花坊の「川柳人」に拠った鶴琳らによって、プロレタリア川柳が主張され実作された。ここにきて川柳史上はじめて、階級社会での対立する一方が、一方の支配層のための文化を取り上げ、その被支配層の発展に具したのであって、ここに川柳はブルジョアの乃至小ブルジョア中間層のイデオロ

をも学びました。さらに窪川原発、津野町の高レベル放射能廃棄物処理施設、日高村の産廃施設などをめぐる地域闘争のエネルギーが脈々と流れています。高岡郡を再生していく道は決して容易ではありませんが、この地で苦勞されながら働き、子育てをして生きてこられた方々が知恵と力を合わせて、農業、林業、漁業を基幹産業として、若者が誇りをもって働き、生活できる地域をつく

り出していくことだと確信しています。仁淀川、新庄川、四万十川の流域から土佐湾に広がる自然の恵みゆたかなこの地には、地域からの要求を県政に運ぶ共産党の県議席を獲得するのだという熱い思いが沸々と続いています。この熱い思いをからだいっぱいと感じながら微力を願わず、四年後に再挑戦することを決意しました。六月には南相馬市でのボラ

ギーをはなれて、プロレタリアートの手に握られた。

手と足をもいだ丸太に

胎内の動き知るころ

して返し

骨がつき

玉の井に模範工女の

なれの果て

今日の風潮の中に、またぞろ十五年戦争時代に歴史を押し戻すような動きが、日米支配層の蠢きに感じられるが、このとき当たって私たちは、鶴琳という青年詩人がその生命をも犠牲にして主張したものに、もう一度、素直に耳を傾ける心を持たねばならないと思う。

◎反戦の意志を貫きとおした彼が、戦後公布された「新憲法」を読んだら、何を憶うだろうか。前文及び戦争・戦力の放棄、基本的人権、地方自治など、どの条項を見ても眼を丸くするに違いない。この勝れた憲法を生活の中に生かし根付かせ、民主主義に立脚した社会を作ろうとする人々の力量は、時と共に強く大きくなりつつあると思われる。

《幸泉三句》
夢半ばされど鶴琳は生き続け
百日紅十枝二十枝に空を突く
それぞれの誓い新たに鶴琳碑

り出していくことだと確信しています。仁淀川、新庄川、四万十川の流域から土佐湾に広がる自然の恵みゆたかなこの地には、地域からの要求を県政に運ぶ共産党の県議席を獲得するのだという熱い思いが沸々と続いています。この熱い思いをからだいっぱいと感じながら微力を願わず、四年後に再挑戦することを決意しました。六月には南相馬市でのボラ

り出していくことだと確信しています。仁淀川、新庄川、四万十川の流域から土佐湾に広がる自然の恵みゆたかなこの地には、地域からの要求を県政に運ぶ共産党の県議席を獲得するのだという熱い思いが沸々と続いています。この熱い思いをからだいっぱいと感じながら微力を願わず、四年後に再挑戦することを決意しました。六月には南相馬市でのボラ

主な活動と参加(活動日誌)

九月

- 九日 高運連幹事会
- 十日 日弁連人権擁護大会
- 十一日 日弁連人権擁護大会
- 十二日 第25回日本高年齢者大会(青森十三日)
- 十三日 県社保協運営委員会
- 十五日 県革新懇代表世話人会
- 十七日 家庭菜園懇談会
- 三十日 8.15集会事務局会議

- 二日 女性九条の会議(周年のつどい)
- 八日 第6回高知県共能祭
- 八日 2011年度革新懇総会
- 八日 こうちネットホップ 第2回総会

- 十二日 革新県民連合幹事会
- 十四日 年金者一揆・後期高齢者医療制度廃止・社会保障と税の一体改革反対
- 10.14集会と街頭宣伝
- 十四日 高運連幹事会
- 十七日 くらしと医療を守る
- 十八日 全県キャラバン(25日)
- 二十一日 第17回全退教ツアール(徳島)20日)
- 二十二日 高退協ニュース11月号原稿締め切り
- 二十二日 2011年高校障害児
- 二十二日 学校教育研究会
- 二十二日 伊方原発の現状と
- 四国のエネルギーについて考える学習会
- 二十五日 高退協ニュース11月号編集委員会
- 二十五日 わらび座創立60周年特別公演
- 二十六日 第25回高知県高齢者大会
- 二十七日 第100回読書会
- 二十九日 10.29原発さようなら高知県民のつどい



ンティア活動に参加し、九月には岩手県の旧沢内村を訪れた後、続いて青森での第25回日本高年齢者大会で学び、そして十一月後半には沖縄での日本平和大会に参加します。日本国憲法を生かしていく国社会のあり方を地域で学びながら、希望をもって闘っていききたいと思ひます。

短歌

自然の無情

山本晶子

死亡広告しばらく見つめ様々なる生の終わりに思いはせたり

桂浜にて高波にのまれ死にし子は一人子らしき愛知より来しに

はるばると桂浜に来て子を失う自然の無情身にしむ今宵

萩の戸

榊原忠彦

フェルメールの光の後に作兵衛の絵と文見れば心暗しも

(「世界記憶遺産」になった山本作兵衛著『画文集 炭鉱に生きる』地の底の人生記録)

萩の戸は紅紫の小枝枝垂れをり分け入ればつく青き莢の実

Nコンで銀賞なりしと孫の電話関心深かりし亡妻は聞きしや

退婦教・知覧への旅

叶岡淑子

特攻の出撃前夜奏でたるフツペルピアノ今日の前に

Tさんの「月光ソナタ」今流れ六十六年超え胸にしむ

(サンメッセ鳥栖)

母へ妻へ幼き子らへ呼びかける絶筆を読む涙して読む

(知覧平和記念館)

俳句

九月二十四日 土用

高知市 五台山 牧野植物園

一行はみな健脚や秋高し

合田青幹

七草を活けし一壺を囲む句座

遠く舞う鷹を鷹かと秋天下

中内英明

群落にすず虫草の名札かな

思草色にじませて萱の下

中内みち代

行くほどに花野広げて華やぎし

小笠原さちを

又の名は若萩四万十川育ち

榊田を貫く道や上佐九月

川柳

たんぼぼの章④

小澤 幸泉

だんだんに小柄をえらぶ

妻の齢

もつれあい支えあい行く

朝の白杖

手放すに惜しい昔の

風景画

騙されることを知ってる

小指です

老いてなお派手でよろしい

飲み仲間

空を切る戦さの音を

忍ばせて

くもの糸切れれば切るほど

からみつき

気ぜわしくうちわをゆらす

へぼ将棋

ウソ重ねまた国民の

あきれ顔

踏まれてもまた歩きだす

蟻の顔

おめでとーいといひます

県文化賞受賞 使命感で木炭を研究

今後は、「炭の文化がちよつとでも見直されたら」と期待を込める。若い生産者への応援歌にしたいと、炭を「科学」する新著も準備中。

宮川俊彦さん



旅のしおり

加賀白山

上岡 積

九月下旬に白山(2,702m)に登った。日本三大霊山として多くの登山客に親しまれている山とはいえ、1,460mの登りは、高齢化した山の会には少し厳しい体力を考えての不参加、申し込まれたが参加をお断りした人などもあり、七名のパーティとなった。

コースは最もノーマルな道。一日目は別当出合いから観光新道を経て室堂に至る約1,250mの登り、二日目は山頂までの約250mの登りと、お池巡り(七つの噴火口湖巡り)。エコーラインを経て砂防新道を下るコースである。道には観光と名が付いているが、ハイヒールで行けると思うと大間違い、息も絶え絶えのハードな登りが続く。下りによくなかわれている道だが、我々は下山で足を痛めないためにこの急坂を登った。

当日は高曇りで日差しは弱く、見晴らしもよくなく絶好の登山日和であった。8時前に登山口を出てゆっくり登る。2時間あまりで尾根筋に出た。少し傾斜が緩くなつたあたりで多くの下山者と出会う。皆、ニコニコ顔だ。朝、室堂を出た人々だろう。だが、そこから登りが再びきつくなつて、遙かなあなたに豆粒のような避難小屋も見える。下から見上げて、あそこ

がまだ2,050m地点だと思つたと、気もなえてきそうだが、ここは忍の一字。美しい山並み、咲き遅れの花々で気を紛らせながら、牛のごとくゆるりと登り避難小屋で昼食を摂る。あと200mあまりの登りだと思つと、心の余裕

も生まれてくる。某氏などは登山道の真ん中に大の字になり、「ここですばらく昼寝をしたい」とのたまう。

黒ゴコ岩と名付けられた大きな岩、弥陀ヶ原の湿原にかかる木道も絵になる。

二時半ごろ今宵の宿・室堂山荘に着いた。汗ばんだ肌を着替へ、周辺を散策する。花は終わり紅葉にも早かったが、霊山をバックにしたハイマツの広々とした高原は気持ちがいい。自生しているブルーベリーに似た黒い木の実がうまい。夕日、暮れなずむ小屋の雰

囲気もいい。

黄昏のともしびは
ほのかに灯りて 懐かしき山小屋よ
麓の小路よよよ

うたの一つも歌いたくなる気分ではある。

二日目は快晴。頂上から御嶽山や槍ヶ岳をはじめ、北アルプスの山々もすべて目に入り、それらを同定するが諸説紛々、喧々諤々。俯瞰すればコバルトブルーの火山湖が、茶褐色の荒々しい岩肌とよくマッチしてこれまた絵になる。

なかでも庄巻は千蛇ヶ池。折り重なつた岩山の奥のほうから水河と見まごう雪渓が張り出し、水面には薄氷が張って陽光にきらめいている。

湖に心を残しながら、十一時過ぎに室堂山荘を出発する。緑の野に赤い屋根がよく似合う南竜山荘を見下ろしてエコーラインを下り、三時半ごろ車に帰り着いた。天気は恵まれた、気持ちのいい山行であった。

家庭菜園懇談会 # 8 の案内

日時 11月14日(月曜)午後1時
場所 セルフィーユ(プリコ西隣)にて
定休日ではありませんがpm3時
閉店だそうです。